

寄贈のタブレット活用

国際交流センターなど

学習支援に

八尾市国際交流センター(旭ヶ丘5)は先月29日、イーラーニング研究所(吹田市江坂町)からタブ

レット端末60台の寄贈を受けました。研究所では教育支援のために端末の寄贈を様々な施設に行ってお

り、同所の学習システムも同時に寄贈された。

センターでは寄贈を受けた端末を、市内在住の外国人に対する日本語指導に活用していくことにしている。さらに在日外国人の子どもへの学習支援にも、役立てていく予定という。

センターの浦上弘明事務局長が代表を務めることも食堂「夢うららほっとステーション」にも別途60台のタブレット端末が寄贈された。

ステーションでは毎月2回、龍華コミュニティセンターで地域の小学生たちに夕食を提供する「こども食堂」をボランティアで運営している。食事以外にも地元の大学生らの助けも借りながら子どもたちの学習支援を行っていることから、タブレットをこうした活動で有効にいかしていきたいとしている。



国際交流センターとこども食堂にタブレットが寄贈された